

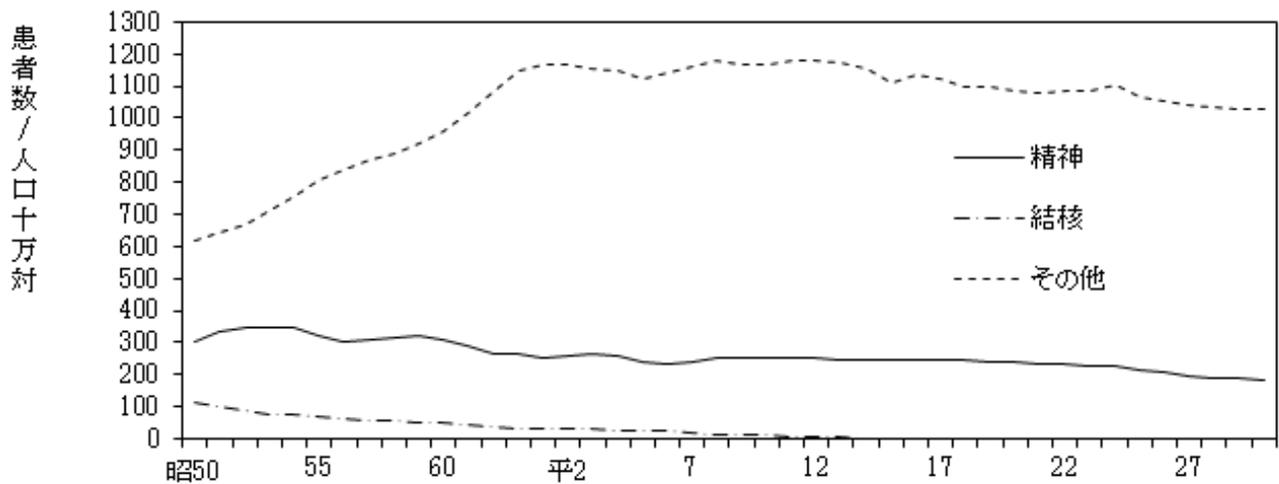
## 病院報告の概況

### (1) 在院患者延数

平成30年中の京都市内の病院における在院患者延数は6,507,329人で、前年に比べ39,311人（0.6%）減少した。年次推移をみると、昭和45年以降増加を続けていた在院患者延数は、平成元年をピークに減少傾向にあり、ここ数年は増減を繰り返している。なお、全国では前年より0.4%の減少となっている（図1）。

病床の種類別では、精神病床が2.0%、その他の病床が0.3%減少した。

図1 一日平均在院患者数(人口10万対)の年次推移



### (2) 新入院・退院患者数

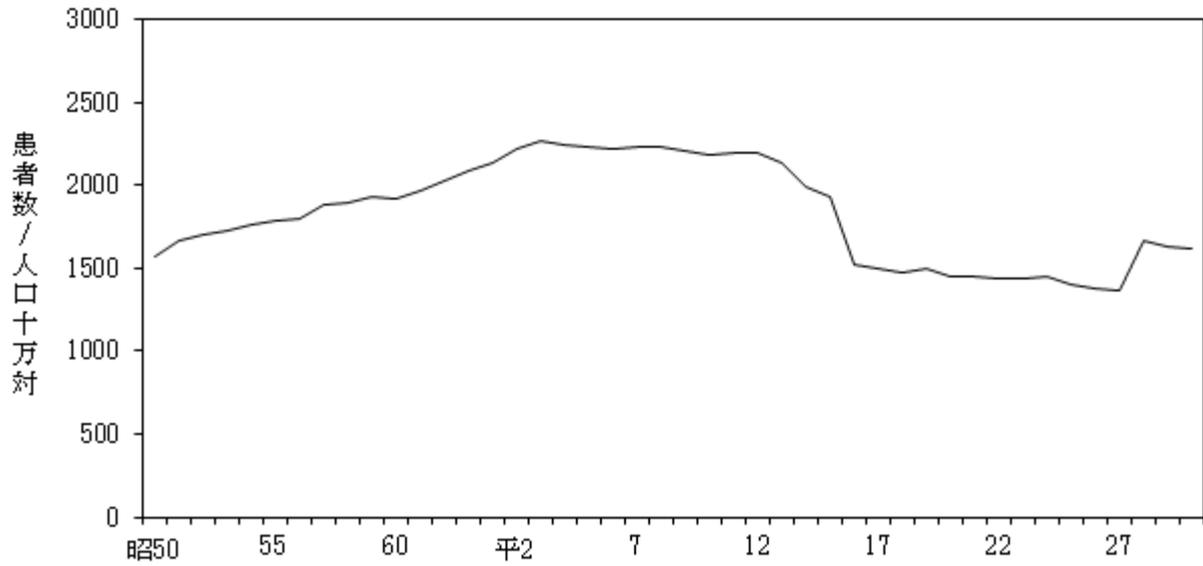
平成30年中の京都市内の病院における新入院患者数は239,966人で、前年より1.0%増加（全国0.9%増加）した。また、退院患者数は240,356人で、前年より1.2%増加（全国1.1%増加）した。

一日平均では、新入院患者数が657人、退院患者数が659人であった。

### (3) 外来患者数

平成30年中の京都市内の病院における外来患者数は7,016,527人（一日平均19,223人）で、前年より1.5%減少（全国0.9%減少）している（図2）。

図2 一日平均外来患者数(人口10万対)の年次推移



(4) 病床利用率

平成30年中の京都市内の病院における病床利用率は78.8%（全国80.5%）で、横ばいであった（図3）。

病床の種類別では、前年に比べて精神病床は0.9ポイント増加し、結核病床は0.8ポイント減少し、感染症病床は0%で横ばい、その他の病床は0.6ポイント増加した（図4）。

図3 病床利用率の年次推移

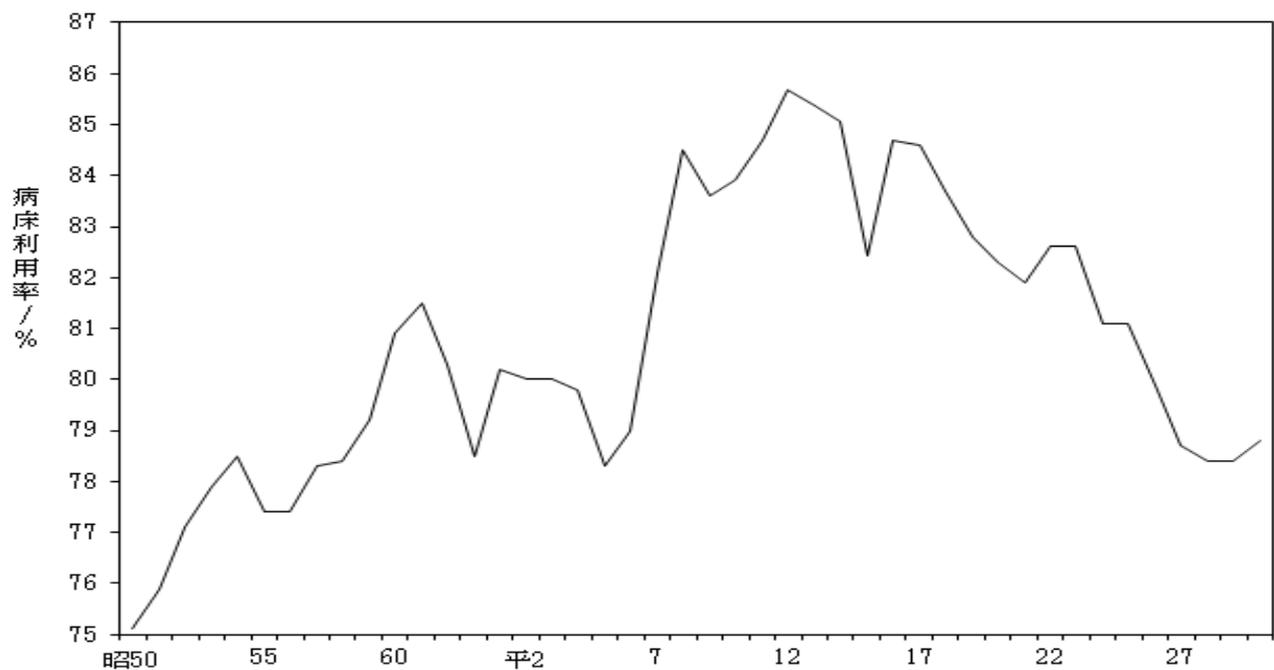
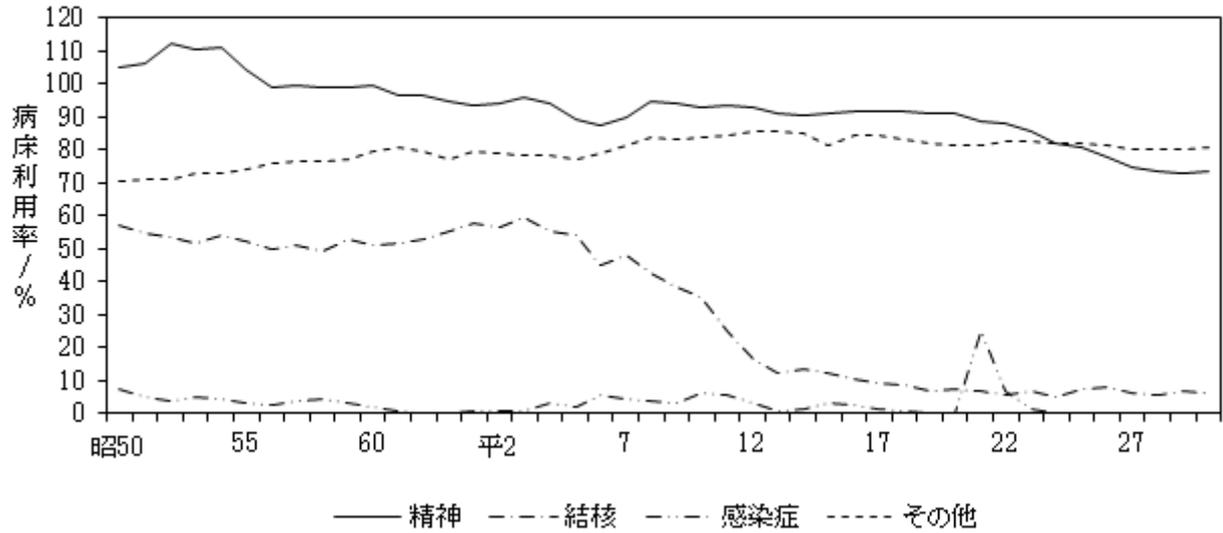


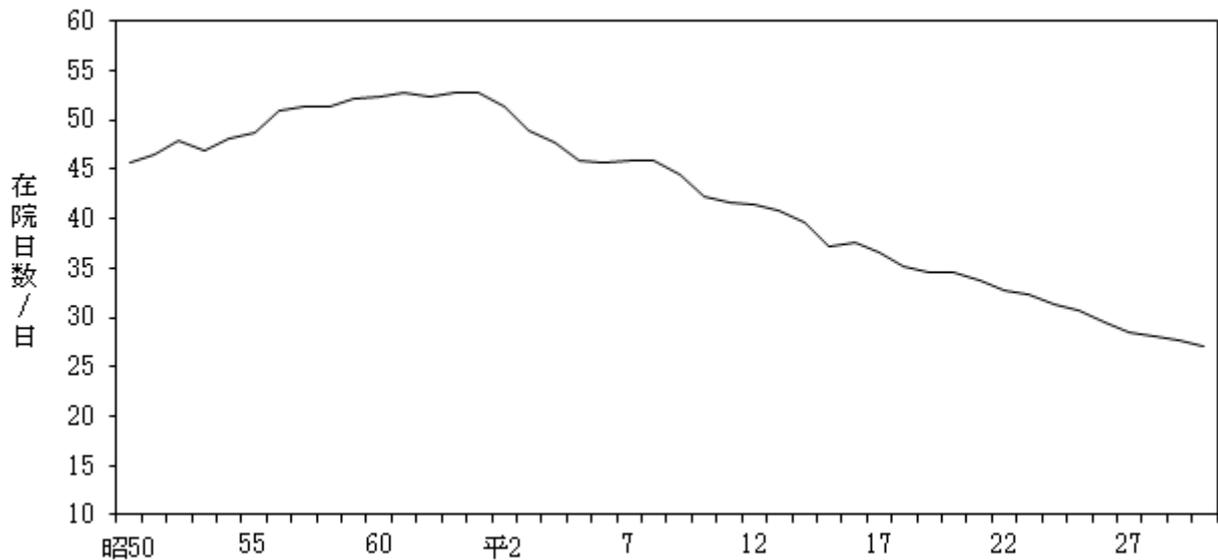
図4 病床種類別病床利用率の年次推移



(5) 平均在院日数

平成30年中の京都市内の病院における平均在院日数は27.1日（全国27.8日）で、前年より0.5日短くなっている。年次推移では、平成元年までは長くなる傾向にあったが、平成2年以降は、平成7年及び平成16年を除いて前年より短くなっている（図5）。

図5 平均在院日数の年次推移



病床の種類別では、精神病床が301.9日（全国265.8日）、結核病床が50.3日（全国65.6日）、感染症病床が0日（全国8.3日）となっている（図6）。

図6 病床種類別平均在院日数の年次推移

